

中底層飼育でマハタの成長良好！！

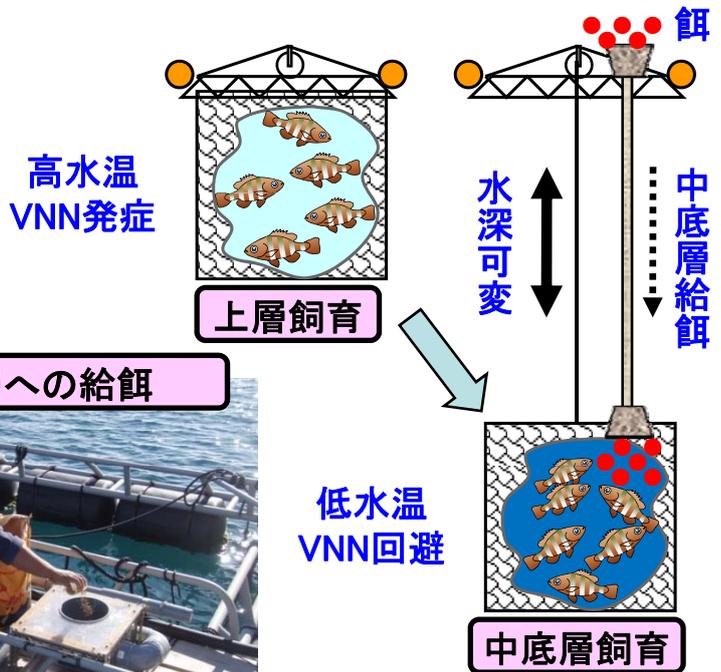
— テーマ1-1 水深可変型養殖生産システムの研究開発 —

研究代表者 愛媛県 農林水産研究所水産研究センター 主任研究員 小泉 喜嗣

研究概要

マハタの安定的生産を目的として、夏期の高水温期に生簀を海表面から低水温(<24℃)の中底層へ沈下させ、VNN発症を回避させる「水深可変型養殖生産システム」の技術開発を行いました。

中底層飼育のイメージ図



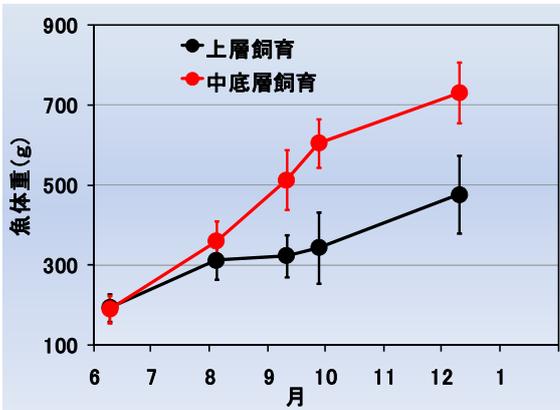
水深可変型筏設置状況



中底層への給餌



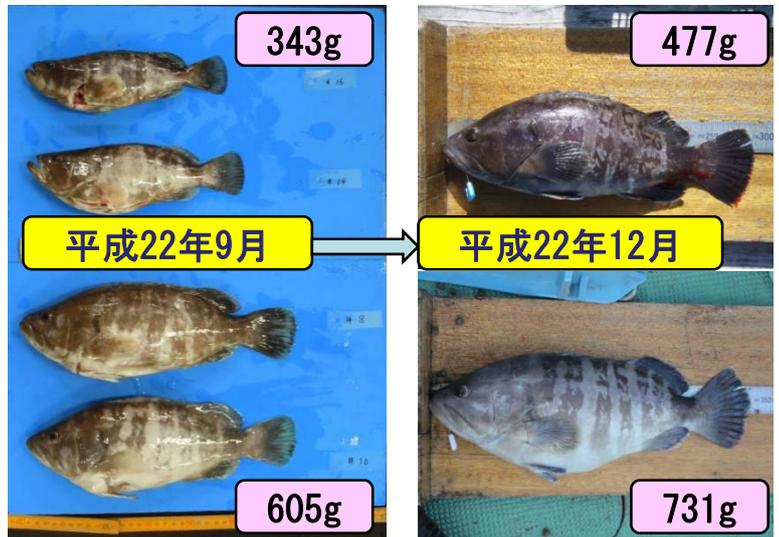
飼育魚の成長



飼育魚の魚体重の推移

上層

中底層



結果と今後の方向性

平成22年度はVNNが未発症のため、発症回避の確認はできませんでしたが、マハタの中底層飼育(水深30m層)で**顕著な成長促進効果**が確認され、**通常3年程度必要な養殖期間を大幅に短縮できる可能性**が明らかになりました。次年度も中底層飼育を継続し、VNN発症を回避するとともに、効率的な給餌技術を組み合わせることで、**養殖現場に普及可能な宇和海独自の水深可変型養殖生産システム**を構築します。